

平成 18 年 6 月 29 日

東京都知事 石原 慎太郎 様

東京都千代田区神田錦町
2-4 第三フクヤマビル
公共の色彩を考える会
会長 田村 美幸

イタリア文化会館外壁色に対する改善意見書

昨年 10 月千代田区千鳥ヶ淵に改築されたイタリア文化会館の赤色外壁について意見書を提出いたします。

「公共の色彩を考える会」は、昭和 56 年東京都バスの色彩改善に声を挙げ発足しました。以来、誰もが共有する公共空間における色使いの作法について、さまざまな議論・提言を行いつつ、日本の快適な色彩環境づくりを目指して活動してまいりました。

イタリア文化会館外壁の赤色につきましては、当会会員で現地を数度にわたり視察し、議論いたしました。その結果の意見を取りまとめましたので、ここにその外壁色の問題点を述べ改善案を提案いたします。

■当会の見解と提案

- ① 江戸以来の歴史が育んだ皇居周辺地域の景観は、日本人がもっとも大切に誇ってきた美しい景観である。それを守るために早くから広告看板を禁じ、四季の彩りを主役とした日本人の美意識を象徴する場所であった。その景観がたった一つの外壁色によって壊されてしまった。
- ② 今回の建築申請は景観法施行以前に提出され認可されたものであるが、これを前例として認めてしまうと、今後皇居周辺の、水と緑を基調とする美しい色彩景観への悪影響が憂慮される。
- ③ 既に新聞などで報道されているように、近隣住民からの苦情が寄せられおり、また有識者からの不評も買っている。
- ④ この色は日照によっては彩度 10 以上にも見える高彩度の赤色であり、より冴えて見える面積効果も考えると、到底このような大面積の外壁に用いるべきでない。
- ⑤ 具体的提案として、この赤色を使うならばアクセント的な色使いにとどめて低層部までとする。そして中・高層部は周辺の建物と同系の低彩度色に塗り替えるべきと考える。

以上